

令和元年度南国市教育委員会の自己点検・評価シート

自己点検・評価について

平成19年6月「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、教育委員会では、毎年、教育に関する報告書を作成し、議会へ提出するとともに市民に公表することが義務付けられました。この法改正は、教育委員会が事務の管理・執行の状況を自ら点検・評価することにより、より効果的な教育行政を推進するとともに、市民への説明責任を果たすという趣旨に基づくものです。

令和2年2月

南国市教育委員会

○評価の見方について

教育委員会にとって注目すべき課題を見つけつつ評価をしていくという趣旨で、「小項目」について3段階又は4段階のマトリックスで評価を行いました。

マトリックス評価の例を下に示していますが、「教育委員会の活動及び管理・執行する事務」については(例1)のとおり、「重要度」(横軸)と「実現度」(縦軸)の3段階のマトリックス評価を行っています。

また、「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」の項目では、南国市事務事業評価に則って(例2)のとおり「重要度」(横軸)と「成果度」(縦軸)の4段階のマトリックス評価を行っています。

①は、「重要だが、実現度が低いもの」であり、②は、「重要だが、成果度が低いもの」であり、ともに「特に注目する課題」ととらえることができます。(色の濃いセルほど注目する課題といえます。)

なお、例3に示しているとおり、必要に応じて評価・点検欄に事業内容や特記事項等を記入しています。

(例1)

↑

実現度

			■
	■	■	■
■	■	■	■①

重要度 →

実現度：3段階(「実現できた」、「やや実現できた」、「実現できなかった」)

重要度：3段階(「重要」、「やや重要」、「やや重要でない」)

(例2)

↑

成果度

				■
			■	■
	■	■	■	■
■	■	■	■	■②

重要度 →

成果度：4段階(「成果は高い」、「成果はやや高い」、「成果はやや低い」、「成果は低い」)

重要度：4段階(「重要度は高い」、「重要度はやや高い」、「重要度はやや低い」、「重要度は低い」)

中項目	小項目	点検・評価	
③子どもの心をたかやまず食育の充実	食育フォーラム	成果度 ↓ ■ ■ ■ ■ →重要度	○2月14日にグレース浜すしにて開催。000名の参加があった。
			○お弁当の絵コンテストには、0000枚の応募があり、00点の表彰を行った。
			○講演会は「“弁当の日”がやってきた」(講師：00中学校0000氏)、パネルフォーラムは「食の自立をはぐくむお弁当づくり」をテーマとし行った。
			○南国市の食育の推進につながる講演及びパネルフォーラムの実施ができた。

(例3)

1 教育委員会の活動

中項目	小項目	点検・評価	
(1) 教育委員会の 会議の運営改善	①教育委員会会議の 開催回数	実現度 ↑ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ● →重要度	○定例会を11回開催した。(令和2年2月20日現在) ○臨時会を1回開催した。(令和2年2月20日現在)
	②教育委員会会議の 運営上の工夫	実現度 ↑ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ● →重要度	○議案・資料を事前に確認し、積極的な意見交換を行った。
(2) 教育委員会と 事務局との連携	○教育委員会と 事務局との連携	実現度 ↑ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ● →重要度	○定例教育委員会での情報・意見交換会の他、適宜情報伝達を行った。特に今年度は、教育委員 学校訪問の見直しに向けて、複数回会議を行ったり、それまでに他市町村より情報を入手し、教 育委員にも事前にまとめた情報等提供をしたりしたうえでの定例教育委員会開催に努めた。
(3) 教育委員の 自己研鑽	○研修会への参加状況	実現度 ↑ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ● →重要度	○土長南国市町村教育委員会連合会の主催する研修会(10/16 視察：大豊町立大豊中学校)に参 加し、教育事情に関する情報収集を行った。7/5 第1回教育委員研修会(講師：教育研究家 妹 尾 昌俊氏)に、2/7 定期総会及び第2回教育委員研修会(講師：株式会社 てっぺん 代表取 締役 大嶋 啓介氏)に参加し、教育事情に関する情報収集を行った。 ○高知県市町村教育委員会連合会及び県教育委員会の主催する研修会(1/10新任市町村教育委 員・教育長合同研修会講師：高知県教育長 伊藤 博明氏、文部科学省初等中等教育局教科調査 官国立教育政策研究所総括研究室 長田 徹氏)に参加し、教育事情に関する情報収集を行った。

(4) 学校及び教育施設 に対する支援 ・条件整備	①学校訪問等	実 現 度 ↑ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> →重要度			●							○教育委員による管内保育所（園）・幼稚園 及び小中学校の訪問期間：5月8日（水）～6月5日（水） 【訪問内容】 ・所長・園長・学校長の学校経営方針（主に学力向上・生徒指導）の確認及び授業参観による教職員ならびに幼児・児童生徒の実態把握等。 ○運動会・文化祭・研究発表会等に参加し、教職員ならびに幼児・児童生徒の実態把握や、保育所（園）・幼稚園・学校の取組の成果や課題の把握に努めた。
			●									
②所管施設の訪問等	実 現 度 ↑ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> →重要度			●							○明見保育所・吾岡保育園・たちばな幼稚園の訪問を行い、所属長の経営方針の確認及び職員ならびに幼児の実態把握等を行った。 ○南国市立スポーツセンター等の所管施設で開催される各種行事等に参加するとともに、施設の状況や利用状況について確認を行った。	
		●										

2 教育委員会が管理・執行する事務

中項目	点検・評価	
(1) 委員会の行政重点目標の設定と実施に関すること	実現度 ↑ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> →重要度	○年度当初に教育行政方針を決定し、所属長会にて全施設長・学校長へ方針及び趣旨を伝え、その後全教職員等への周知徹底を図るよう全施設長・学校長へ依頼した。
(2) 学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること	実現度 ↑ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> →重要度	○南国市ふれあい教室の施設移転に伴い、令和2年2月より、名称も「南国市教育支援センターふれあい」と変更となった。施設移転場所は、大篠小学校南からくり工房より、南国市役所北側NOSAI土佐倉庫へととなった。
(3) 教科用図書の採択方針に関すること	実現度 ↑ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> →重要度	○本年度は令和2年度以降に使用する公立小学校教科用図書及び中学校簡易版の採択を行った。(8/7に、臨時教育委員会を開催し、採択)
(4) 研究員及び内地留学生の選考に関すること	実現度 ↑ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> →重要度	○南国市立教育研究所に専任主事1名(香長中学校より)を、市教委の研究方針と照らし検討、人選し、新たに配置した。 ○教職員育成のための内地留学生2名(高知大学教職大学院へ)を派遣した。
(5) 事務局及び学校その他の教育機関の職員の 任免その他の人事に関すること	実現度 ↑ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> →重要度	○南国市立小中学校主任の承認(4月)。 ○特別支援教育支援員21名を小中学校14校に配置した。 ○ICT支援員2名を小学校2校(奈路小学校・久礼田小学校)に配置した。 ○学校図書館支援員8名を小中学校14校に配置した。 ○南国市学力課題対応アドバイザー(小学校:国語・中学校:数学)2名と、英語科授業改善アドバイザー1名を学校に配置した。 ○合理的配慮コーディネーター1名を稲生小学校・三和小学校に、医療的ケア・コーディネーター2名を大篠小学校に配置した。

<p>(6) 教職員の異動方針に関すること</p>	<p>実 現 度 ↑</p> <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>			●							<p>○高知県教育委員会の異動方針に基づき、学力向上及び特色ある学校づくりに向けた人材配置に努めた。 ○令和2年度の各校の教員人事について、各学校長とヒアリングを実施し、学校長の意向を尊重した人事を検討した。</p>
		●									
<p>(7) 学校その他の教育施設の長期にわたる 目的外使用に関すること</p>	<p>実 現 度 ↑</p> <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>●</td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>	●									<p>○設置対象者：高知大学教育研究部自然科学系理学部門。 ○設置場所：南国市立三和小学校 校舎屋上 ○設置機器：超高密度気象観測・情報提供サービスPOTEKA ○平成31年4月1日～令和2年3月31日 ○レーダーの雨量評価検証や、豪雨や突風などが発生する際の気象状況の把握のため</p>
●											
<p>(8) 委員会の附属機関の委員の任免に関すること</p>	<p>実 現 度 ↑</p> <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>			●							<p>○南国市奨学金奨学生選考委員会委員の委嘱・任命（4月委嘱・任命 任期2年） ○南国市社会教育指導員の委嘱（4月委嘱 任期1年） ○南国市立公民館長の委嘱（4月委嘱 任期2年） ○南国市社会教育委員の委嘱・任命（5月委嘱・任命 任期2年） ○南国市教職員衛生委員会委員の委嘱・任命（5月委嘱・任命 任期1年） ○南国市少年育成センター補導委員の委嘱（5月委嘱 任期2年） ○南国市少年育成センター運営委員の委嘱（5月委嘱 任期1年） ○平成30・令和元年度南国市障害者教育支援委員会委員の委嘱・任命 （5月委嘱・任命 任期2年） ○南国市立図書館協議会委員の委嘱（6月委嘱 任期1年） ○南国市子ども読書活動推進委員の委嘱・任命（6月委嘱・任命 任期2年） ○南国市少年育成センター運営委員会委員の委嘱（6月委嘱 任期2年） ○令和元年度小学校教科用図書調査研究委員会委員の委任（6月委任 任期1年）</p>
		●									
<p>(9) 教育予算その他議会の議決を経るべき 議案について意見を申し出ること</p>	<p>実 現 度 ↑</p> <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>			●							<p>○令和2年度当初予算編成方針についての確認を行った。（11月）</p>
		●									
<p>(10) 社会教育法(昭和24年法律第207号)第40条の 規定による公民館の事業又は 行為の停止に関すること</p>	<p>実 現 度 ↑</p> <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>						●				<p>○令和2年2月現在、該当するものなし</p>
		●									

<p>(11) 学齢児童生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又はこれを変更すること</p>	<table border="1"> <tr> <td>実</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>現</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>↑</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>→重要度</p>	実			●	現				度				↑				<p>○大篠小学校校区の児童数急増の緩和と、大篠小学校に隣接する6校の教育のさらなる活性化のため、平成29年度より大篠小学校隣接校選択制度を実施している。</p> <p>○本制度利用者は、平成30年12月31日現在で、平成29年度新入学児11名（当初12名であったが、後日1名取り下げ）、2年生以上の在校生は9名（当初は10名であったが、隣接校区に転居のため）であり、平成30年度新入学児が12名、2年生以上の在校生は3名であった。令和元（平成31）年度新入学児が14名、2年生以上の在校生は12名であった。令和元年12月31日現在で、令和2年度は新入学児が20名を予定している。</p>
実			●															
現																		
度																		
↑																		
<p>(12) 教育委員会規則の制定又は改廃を行うこと</p>	<table border="1"> <tr> <td>実</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>現</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>↑</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>→重要度</p>	実			●	現				度				↑				<p>○東京2020オリンピック聖火リレー南国市準備委員会規約の制定について（4月）</p> <p>○南国市子ども読書活動推進委員会設置条例の制定について（4月）</p> <p>○第2次南国市子ども読書活動推進委員会設置要綱の廃止について（4月）</p> <p>○南国市地域学校協働本部設置要綱の制定について（5月）</p> <p>○地域スポーツ育成振興団体補助金交付要綱の一部改正について（5月）</p> <p>○南国市心身障害児就学指導委員会規則の一部改正について（6月）</p> <p>○南国市立図書館建設工事設計業務委託に係る委託事業者のプロポーザル審査委員会設置要綱の制定について（8月）</p> <p>○南国市中央地域交流センター（仮称）建設工事設計業務委託に係る委託事業者のプロポーザル審査委員会設置要綱の廃止する要綱について（8月）</p> <p>○南国市就学援助規則の一部改正について（8月）</p> <p>○県費負担教職員の私有車の公務使用に関する規程の一部改正について（12月）</p> <p>○南国市運動部活動改革推進委員会設置要綱の策定について（12月）</p> <p>○南国市ふれあい教室設置規則の一部改正について（1月）</p> <p>○南国市ふれあい教室運営委員会設置規則の一部改正について（1月）</p>
実			●															
現																		
度																		
↑																		

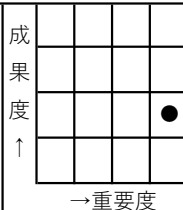
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(1) 就学前の保育・教育、学校教育に関すること

中項目	小項目	点検・評価																	
①市民に信頼される開かれた保育所・保育園・幼稚園・学校経営の推進	幼稚園行事 (たちばな幼稚園)	成 果 度 ↑ →重要度 <table border="1" data-bbox="795 277 936 462"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>								●									【取組内容】 ◎地域との積極的な交流を図ることにより、地域に愛される幼稚園づくりを推進する。 ○夕涼み会、おじいちゃん・おばあちゃんの日の集い等実施する。 【評価】 ・地域の方との交流は計画的に実施することが定着化してきたことで、地域の方から内容を子どもたちがより楽しめるようにと工夫を凝らして下さり、子どもたちにとってさまざまな経験が広がる機会となった。今年度は、新たな交流として地域の「あおぞらサロン」の方々との交流を持つなどかわりも広がってきた。
				●															
開かれた学校づくり 推進委員会 (管内全小中学校)	成 果 度 ↑ →重要度 <table border="1" data-bbox="795 576 936 761"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>								●									【取組内容】 ◎社会に対して「開かれた学校」とし、家庭や地域社会に対して積極的に働きかけを行い、家庭や地域社会とともに子どもたちを育てていくという視点に立った学校運営に努める。 ○各校・園では、開かれた学校づくり推進委員会を設置し、地域に開かれた学校づくりを推進し、2月に活動の集約を行う。 【評価】 2月現在(未)	
			●																
学校運営協議会 (奈路小・白木谷小 ・鳶ヶ池中学校区・岡豊小 ・久礼田小【令和元年度よ り】)	成 果 度 ↑ →重要度 <table border="1" data-bbox="795 914 936 1099"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>								●									【取組内容】 ◎学校運営協議会では、学校運営に保護者・地域住民等が一定の権限及び責任を持って学校運営に参画することにより、そのニーズを迅速かつ的確に学校運営に反映させるとともに、学校、家庭及び地域社会がそれぞれの役割を果たしながら相互に連携し、一体となって子どもたちの教育に取り組むことを目的とする。 <南国市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則(平成18年11月21日)> ○協議会の委員は、15名以内とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱又は任命する。 (1) 設置校の所在する地域住民 (2) 設置校に在籍する児童及び生徒の保護者 (3) 学校関係者 (4) 識見を有する者 (5) 前各号に掲げる者のほか教育委員会が適当であると認める者 【評価】 ・各校(ブロック)の学校運営協議会の委員と学校・地域住民が連携を図り、地域の特色を活かした取組を行うことができた。年度を重ねるごとに、各校での自主的な運営体制が確立されてきている。しかし、地域における人材の高齢化に伴い、コミュニティ・スクール推進委員等の人材の確保がむずかしい状況にあり、今後は、各中学校ブロックで人選を図っていく等、見直しが必要である。	
			●																

<p>コミュニティ・スクール 推進体制構築事業 (奈路小・白木谷小 ・鳶ヶ池中学校区 ・久礼田小 【令和元年度より】)</p>	<p>成 果 度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="795 71 940 255"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>												●					<p>【取組内容】</p> <p>◎学校、家庭及び地域住民相互の連携・協働を推進するため、学校を核として地域住民等の参画や地域の特色を生かした事業を展開するとともに地域のコミュニティの活性化を図る。</p> <p>○南国市全体の「コミュニティ・スクール推進体制の構築を図るため、CS指定校（区）に、CSディレクターを配置し、学校運営協議会設置に向けた組織体制を確立する。</p> <p>○目的 学校運営に保護者・地域住民等が一定の権限及び責任を持って参画をする。学校・家庭及び地域社会がそれぞれの役割を果たしながら相互に連携し、一体となった取組を推進することによって、特色のある学校・地域としての活性化を図る。</p> <p>○持続可能な仕組みとなるように、南国市教育委員会事務局が中心となり、体制整備を行う。</p> <p>○コミュニティ・スクール学習会（令和2年1月21日） ・講師：黒潮町教育委員会 教育長 畦地 和也 氏 (文部科学省コミュニティ・スクールマイスター)</p> <p>【評 価】</p> <p>・各校（ブロック）のCSディレクター及び学校運営協議会委員と学校が連携を図り、地域の特色を活かした取組を行うことができた。今年度より、学校運営協議会に市教委は参加をしていないが、各校で自主的な運営体制が確立されてきている。しかし、2022年までに国が進めようとしている各校のコミュニティ・スクール化に向け、中核となる推進委員の人選も含めて、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）と学校地域協働本部事業との効果的な運用について、見直しを図ることが必要である。</p>
			●															
<p>学校評価 (管内全小中学校 ・たちばな幼稚園)</p>	<p>成 果 度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="795 742 940 925"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>								●									<p>【取組内容】</p> <p>◎自らの教育活動その他の学校運営について改善を図る。学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進める。設置者等が、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じ教育の質の保証を図る。【南国市学校評価ガイドライン（平成29年4月）】</p> <p>○学校は、授業参観や学校評価書の作成等、職務内容について説明し、理解を得たうえで委員の就任の依頼を行う。</p> <p>○教育活動や学校経営の様子を公開し、学校関係者評価委員会と学校との間での十分な意見交換や対話を行い、理解を深めるようにする。</p> <p>○学校関係者評価委員会は、教育活動の観察や各種資料の検証等を通じて、評価や改善方策の提案をします</p> <p>【評 価】 2月現在（未）</p>
			●															

保幼小連絡協議会
(管内保育所・園、幼稚園
・管内小学校)



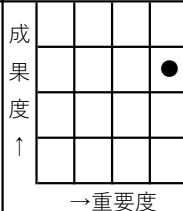
【取組内容】

◎学びや育ちが保育所（園）・幼稚園と小学校でスムーズに連携がとれるよう研修や情報交換を通して、保育教育の充実を図る。
○5月「学びや育ちがつながる保幼小接続期のポイント」をテーマに開催。1年学級担任や管理職にも参加してもらい、小学校区を中心とした小集団でアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムについてグループ協議を行う。
○就学前担当・特別支援教育担当の指導主事及びスクールソーシャルワーカーで保育所（園）・幼稚園を訪問し、「年長児の保護者への就学に向けて」の講話をおこなう。その中で、年長児保護者を対象に小学校入学に向けての説明を行う。また、夏季休業中を利用し、小学校教諭が保育士体験を実施する。

【評価】

・講話を聞いてもらうことで、保護者だけでなく、保育所（園）・幼稚園の先生にもこれからどのようなことをして行けば良いか、改めて考える時間とすることができた。しかし、連絡協議会の中で設定できる時間は少なく、接続カリキュラムの中身まで十分に話し合う時間は設けることができなかった。

南国市幼児教育研究会
(管内保育所・園、
幼稚園)

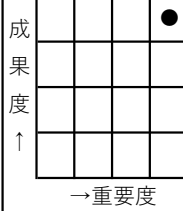


【取組内容】

◎幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識した幼児教育の研究を行う。
○本年度は「考えて行動する子どもを育む保育の在り方を探る」をテーマに、稲生保育園が10月30日（水）に公開保育を行い、2月12日（水）に研究発表会を行う。

【評価】

・公開保育では、子どもが自分なりに考えたり、保育者や友だちと関わったりして生活や遊びを進める姿に視点をあて、その姿につながった保育者の援助や環境構成を意識して参観することができた。参観者からは稲生保育園だけでなく、自分の保育所（園）において、どのような環境構成や援助が普段の支援に対してプラスされると自ら考えて遊ぶようになるのか、テーマと関連付けた協議がなされていた。



【取組内容】

◎第4次南国市教育基本振興計画及び小中学校学力向上推進プランの実現を図る。
○4中学校ブロックごとに、南国市の重点課題に沿った研究を行う。
○南国市の重点課題を、①国語科の授業改善及び「読む能力」「書く能力」の育成 ②特別支援教育 ③道徳教育 ④英語教育 ⑤防災教育に焦点を当て、予算配当もそれに従う。
①主に北陵中学校ブロックが国語科を中心とした研究の取組を行い、講師：吉田 裕久教授（広島大学）を招聘して小中連携担当者会ともタイアップして授業（担当者：授業参観）を行い、求められている授業の在り方を学ぶ機会を設定した。（9/9・10）
②すべての教育活動の基盤となる特別支援教育を柱に据え、ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりを行うことの重要性を継続して周知した。
③本年度も「学校・家庭・地域が一体となった道徳教育の推進（かがやく明日への人づくり）」を柱とし、考え、議論する道徳の授業づくりを継続して周知した。
④市英語担当者会（8/16実施予定→台風接近に伴う避難所開設のため開催中止）
中学校ブロック英語担当者会
○香南中B（香南中6/21・日章小12/3） ○香長中B（香長中6/20・十市小12/10）
○鳶ヶ池中B（鳶ヶ池中6/4・長岡小12/11）○北陵中B（北陵中5/30・白木谷小11/15）
⑤南国市防災教育研修会を各校学校安全担当者対象に、1/10に開催した。
（講師：高知大学特任教授 岡村 眞氏）

<p>小中連携学力向上プロジェクト事業 (指定校：管内全小中学校) ※地域アクションプラン補助対象事業</p>		<p>【評 価】 ①南国市の学力課題に焦点を当て、講師 吉田 裕久教授による次期学習指導要領に対応した国語科の在り方を、全小中学校の代表者が学ぶことができる機会を設けることができたことは、大きな第一歩である。しかし、学力向上推進委員や学力向上担当者には、南国市の学力課題が国語にあることはおおむね周知されてきているが、教員一人ひとりまでの共有化には至っておらず、授業を変えるまでには至っていない。 ②「ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくり」という言葉は周知されてきている。また、シラバスの提示や視覚支援は、特に各校徹底されてきている。しかし、「ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくり」の本質。すなわち、「児童生徒が自ら関わりたくなる教師の工夫がある授業」という理解が進んでいないことがあり、シラバスの提示や視覚支援だけで終わっている授業づくりも少なくない。 ③岡豊小が拠点校となり、研究発表会（6/20・12/26）や授業づくり講座等、各校の道德教育推進教師を中心に多くの先生方の参加があり、効果的な指導や評価の在り方について学ぶ機会となった。今後は、道德教育推進教師を中心に学んだ内容をそれぞれの学校で、全教員に確実に周知していくことが必要である。 ④小学校の英語授業を校区の中学校教員が参観し、また、中学校の英語授業を校区の小学校の教員が参観し、互いに協議を行ったことにより、来年度から本格実施となる小学校の英語教科としての実践や中学校における英語授業を、校区の小中教員で共有することができた。加えて、英語の授業内容や指導方法等についても共有ができ、小学校教員が英語の授業に対してイメージを膨らませる等、次の実践につなげる機会にすることができた。また、校区によっては、学校が自主的に英語担当者会を全校研に位置づけ、全教職員で共有する機会がもてた。【北陵中B：白木谷小（11/15）・鳶ヶ池中B：長岡小（12/11）・香南中B：日章小（12/3）】しかし、英語教育拠点校（香南中）その校区の日章小、大湊小は平成26年度より英語教育拠点校としての取組を進めてきた一方、その他の3ブロック（香長中B・鳶ヶ池中B・北陵中B）は一昨年度より先行実施をしているものの、学校によりまだばらつきがみられる。来年度はいよいよ英語教科化の本格実施となる。各校の英語教育の体制整備を一層図ることが課題である。また、各中学校ブロックでの担当者会の開催は2年目となり、軌道に乗り始めてきたが、特に小学校は2学期の学校行事が多いなかでの開催となったため、ブロックによっては参加者が少ないこともあった。今後は各ブロックとの打ち合わせを入念に行い、できる限り学校が参加しやすいように、日程調整を行う必要がある。 ⑤3学期の開催は遅く、次年度は年度当初に開催し、その年度の学校安全に対する取組を全教職員で進められるようにしていく。</p>																
<p>教育課程研究校事業 (国指定校：大篠小) 1期目 ※令和元～2年度 県指定事業</p>	<p>成 果 度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="795 1085 929 1268"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>								●									<p>【取組内容】 ◎自ら学び、自信をもって共に伸びる児童の育成～見方・考え方を働かせる算数科の授業～を目指し、「数学的な見方・考え方」を確かなものにしていく。 ○各学年に外部講師を配置し、研究授業（全校研・ブロック研）で、指導・助言をいただく。 ○令和2年1月16日（木）研究発表会を行う。 【評 価】 ・大篠スタイルとして授業づくりのプロセスの共有ができており、組織的な授業改善ができています。全国学力・学習状況調査でも、算数科では全国平均以上の結果を残している。</p>
			●															

<p>平成31年度「主体的・対話的で深い学び」を実現するための実践研究事業 (指定校：香長中)</p>	<p>成果度 ↑</p> <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>								●									<p>【取組内容】 ◎新学習指導要領で求められている「資質・能力ベース」の授業の実現、教材分析力及び授業分析力の向上を目指し、教員同士が切磋琢磨しながら授業力を磨くとともに、小中9年間の学びを軸にした教科横断的な授業づくりを推進し普及していく。また、研究推進の中核となる教員は、配置校における研究の中心として推進に資する。 ○教材研究会及び授業研究会を1セットとし、年間3回実施する。(公開を原則)教材研究会では、模擬授業を15分～20分を行い、他校からの参加者も含め、全員で視点をしばった授業づくりについて協議を行う。その後、本事業の講師である、学力向上総括専門官(高知県教育委員会事務局小中学校課：斎藤 一也先生)より指導・助言、全体講話をいただく。 ○1セット目：5月24日(金) 教材研究会Ⅰ、6月21日(金) 授業研究会Ⅰ 2セット目：7月26日(金) 教材研究会Ⅱ、9月4日(金) 授業研究会Ⅱ 3セット目：11月21日(木) 教材研究会Ⅲ、1月31日(金) 授業研究会Ⅲ ○学力向上総括専門官の訪問や教材研究会、授業研究会に合わせて、研究推進の中核となる教員が、各教科主任とともに授業参観・協議を行うことで、各教科を「見方・考え方」でつなぎ、各教科の「見方・考え方」を踏まえた授業づくりを目指し、各教科主任の「授業を見る力」の育成を図る。 【評価】 ・研究推進の中核となる本事業の教員が教科主任会にも参加をし、若年教員の授業づくりについて指導・助言を行うことで、若年教員の指導力の向上につながっている。しかし、新学習指導要領で求められている、資質・能力ベースの授業が、学校全体としてみた時に、まだ全体には広がっていない。指定最終年度である来年度は、中核となる教員が学校の動き、学校の課題を見通した提案等、全体を見通した組織的な動きができるようになることが課題である。</p>
			●															
<p>②学力の向上等を図る保育・教育の充実</p> <p>中学校組織力向上のための実践研究事業 (香長中4年目、北陵中3年目、鳶ヶ池中2年目)</p>	<p>成果度 ↑</p> <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>								●									<p>【取組内容】 ◎複数の教員が学年をまたがり同じ教科を担当する「教科のタテ持ち」方式を導入し、定期的な教科会の実施等を通して、指導方法の工夫・改善を図る。教科主任会の充実(教科会の活性化及び教科主任の相互育成、教科会の充実、若手教員の育成と日常的なOJTの充実)を図る。 ○教科会を週時程のなかに位置づけ、各教員が授業づくり等について協議ができ、学習指導要領に基づいた授業づくりの研究や、各学年の系統的な指導につなげる。 ○主幹教諭を配置し、主幹教諭が配置校において組織マネジメントの中心となり、機能的な組織体制の構築を図る。 【評価】 ・市内3中学校(香長中・鳶ヶ池中・北陵中)で教科のタテ持ちによる取組を行った。各校ともに主幹教諭を中心に、定期的な教科会や教科主任会を実施することにより、系統的な教科指導及び日々の授業における指導方法の工夫・改善を図ることができた。また、教科会での先輩教員による指導・助言により、若年教員の指導力の向上につながっている。しかし、各教科会の内容がマンネリ化しつつある傾向も見られるので、より授業の質的改善につながるよう、会の運営の工夫を図っていく必要がある。</p>
			●															

<p>全国学力・学習状況調査 到達度把握・授業評価シス テム推進事業 (管内全小中学校)</p>	<p>成 果 度 ↑</p> <table border="1" style="float: right;"> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p style="text-align: right;">→重要度</p>				●													<p>【取組内容】 ◎義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への指導の充実や学習状況の改善を図る。 ○H31全国学力・学習状況調査（4/18実施） ・調査対象：市内全小学6年生、中学3年生 ※今年度は中学校英語・話すこと調査も実施。（初） ○到達度把握調査（4/18実施、12/18実施） ・調査対象：4/18…小学4・5年生、中学1・2年生、中学3年理科 12/18…小学1・2・3・6年生 ※高知県学力定着状況調査は、12月に、小学4・5年生と中学1・2年生で実施</p> <p>【評 価】 ・4月18日に実施された全国学力・学習状況調査において、小学校は国語・算数ともに高知県平均、全国平均を上回る結果となり、各校における学力向上のPDCAサイクルが効率的に回っていることが伺える。（国語 全国平均以上：9校・算数全国平均以上：9校）また、中学校は全国平均を上回った学校が国語で2校、数学で3校、英語では拠点校の1校であった。目標である全国平均「+3P」は達成できていないが、各校における授業改善は、少しずつではあるが進んできている。しかし、南国市の長年の課題である国語については改善傾向にはあるが、やはり読み取りや自分の考えを根拠を明らかにして書くことについては課題が残っており、各校における基礎・基本の充実、日々の授業改善が必要である。また、中学校においては、英語（特に書く力）に大きな課題がある。来年度から小学校高学年が英語教科化となることもあり、今まで以上に小学校との連携が重要な鍵となる。小学校での学びを基に、中学校でさらに自分の思いを英語で伝え合い、表現できるような英語の授業が行えるよう、日々の授業改善が必要である。</p>
			●															
<p>英語教育拠点校事業 (拠点校：香南中)</p>	<p>成 果 度 ↑</p> <table border="1" style="float: right;"> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p style="text-align: right;">→重要度</p>				●													<p>【取組内容】 ◎香南中学校を英語教育研修拠点校として指定（令和元年度～令和3年度の3年間）をし、英語推進教師1名を配置する。英語推進教師は、新学習指導要領（平成29年3月公示）に示された英語教育の実現に向け、香南中学校区内の日章小学校、大湊小学校を中心に連携を図り、小学校英語科の授業づくりの支援を行う。 ○英語推進教師は、上記2校以外の市内全11校を1年間で全て訪問し、小学校英語科における授業改善を進めるとともに、市内各校の英語教育の推進体制の構築に向けて指導、助言を図る。 ○市教委が主催する、市英語担当者会とも連携を図り、小中学校のつながりを生かした授業改善を図り、その研究の過程や成果の普及を通して児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。 ○英語通信（Hello, teachers!）を定期的に発行し、英語教育推進のための情報提供を行う。</p> <p>【評 価】 ・英語推進教師が校区の小学校（日章小・大湊小）と連携を図り、小学校英語科の授業づくりについて指導・助言を行い、担任の英語力の向上に資することができた。また、年間4回（2セット）の授業づくり講座では、文部科学省の山田調査官の指導・助言をいただき、新学習指導要領で求められている英語のモデル的な授業を英語推進教師が披露し、県内の各校の教員が学び合える貴重な機会となった。しかし、市の英語担当者会（各中学校ブロック）に、日程調整が不十分なところがあり、英語推進教師が全て参観することができなかった。（4回中2回）次年度は早めの調整を行い、各中学校ブロックに入って指導・助言を行うこととしたい。</p>
			●															

<p>特別支援学級等 専門家活用事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合理的配慮 コーディネーター ⇒稲生小・三和小 ・医療的ケア コーディネーター ⇒大篠小 (スクールナース) 	<p>成 果 度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="797 71 949 255"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>								●									<p>①合理的配慮コーディネーター 【取組内容】 ◎インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育を推進していくため、障害のある児童等に対して、その状況に応じて提供する「合理的配慮」の実践事例を蓄積するとともに、適切な「合理的配慮」のための校内体制を整備する。さらに、その中でも、「知的障害特別支援学級」の学級担任の指導力向上を図る。 ○本年度は1名で小学校2校受け持ち（稲生小学校、三和小学校）、指導にあたる。 ○「合理的配慮コーディネーターの会（合の会）」を高知市支援教育スーパーバイザーの2名と共に学期1回の予定で開催し、各校での取組の現状把握等情報共有を行うとともに、各校の特別支援教育の充実に向けて、現在課題となっていることの確認をする。 【評価】 ・合理的配慮コーディネーターが配置校の2校の特別支援学級や通常の学級の環境整備や授業に対して、合の会や研修等で得た知識や取組をいかして指導・助言することができた。しかし、合理的配慮コーディネーターが配置校以外の学校に対して指導・助言を行い、特別支援教育の在り方を南国市全体に広げていくことに弱さがあった。南国市特別支援教育学校コーディネーター研修と連携して、南国市の課題の周知等、まず行う必要がある。</p> <p>②医療的ケアコーディネーター 【取組内容】 ◎特別な医療的支援が必要な子供が、就学前から卒業後にわたる切れ目ない支援を受けられる体制の整備を推進していくために特別支援教育に関する専門的な知識や技能を持った医療ケアのための看護師を「医療的ケアコーディネーター」として配置する。 ○医療的ケアコーディネーター（スクールナース）2名を大篠小学校に配置。病弱・身体虚弱特別支援学級入級児童に対する酸素ボンベの定時交換、給食及び緊急時等におけるエピペン使用児童（6名）の対応、養護教諭の業務補助等の職務を遂行する。 【評価】 ・医療的ケアコーディネーターが常に配置されていることで、子どもたちだけでなく、教員間にも安心感が生まれてくる。特に大きな対応が何もなかったことが大きな成果であり、保護者とも連携しながら該当児童の安全な学校生活を確保できた。</p>
			●															

<p>南国市教育研究会</p>	<p>成 果 度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="797 73 938 256"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> </table> <p>→重要度</p>												●	<p>【取組内容】 ○本年度と来年度の2年間は休止</p> <p>【評 価】 ・次年度は、休止の2年目であり、令和3年度から「教員の働き方改革」の視点も踏まえた、より効果的な研究会となるようあり方の研究に継続して取り組んでいく。</p>
			●											
<p>学校図書館支援員の配置 (管内小中学校)</p>	<p>成 果 度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="797 320 938 504"> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>				●									<p>【取組内容】 ◎8名の図書館支援員を小中学校に配置し、各小中学校の図書館担当とともに各校の図書室の環境整備や図書の充実を図る。さらには、各校の読書の充実や国語科の学力向上の一助となる活動を行う。 ○大篠小・香長中以外は2校かけもちで活動する。 ○平成30年9月より、新図書館システム「探調システム」を導入している。</p> <p>【評 価】 ・各校の学校図書館支援員の特色も生かした学校図書館の環境整備を行い、児童生徒が本を少しでも読みたくなる環境の工夫を積極的に行ってくれた。また、第3次子ども読書活動推進計画を見据えた「南国市立図書館」との連携も図ることができるようになり、その中でも学校図書館支援員の求めていることに応じた学校図書館支援員の研修も、年に2回行うことができ、さらなる学校図書館の充実にもつなげることができた。しかし、新図書館システム「探調システム」を、特に各校の蔵書計画に反映させる意識と分析方法について、事務局として十分ではなかった。各校の学校図書館担当教員との連携のもと、蔵書の充実を今後さらに図っていく必要がある。</p>
			●											
<p>放課後等学習支援事業 (管内小中学校)</p>	<p>成 果 度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="797 791 938 975"> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>				●									<p>【取組内容】 ◎放課後の加力学習を実施できるよう支援員を派遣し、教職員とともに学力補充を要する学力層を中心に、学力の定着を図る。 ○放課後だけでなく、5・6時間目や長期休業中の加力学習にも支援員を派遣し、教職員とともに指導に当たることで、よりきめ細やかな個別支援を行える体制を整える。 ○実施校【小学校12校（稲生小以外）・中学校4校】</p> <p>【評 価】 ・各校ともに、教職員とともに放課後の加力学習を実施できた。とくに、学力補充を要する学力層の児童生徒に対して個別指導を行うことにより、基礎学力の補完を行うことができた。しかし、学校によっては、学習支援員の早期の確保ができず、開始時期が2学期以降の学校もあった。次年度は、早期の支援員の確保による早期のスタートが課題である。</p>
			●											

成 果 度 ↑				●

→重要度

【取組内容】

◎小中学校学力向上推進プランの実現を図るとともに、小中連携で安心安全な学校づくりを推進するために、「いじめ」「不登校対策」の取組の推進と、南海トラフ地震等の防災教育を目指す。

①年2回のQ-Uアンケートの活用、引継ぎシートの活用による積極的な生徒指導や、不登校等学習支援員を中学校に本年度は3名配置している。

②児童会生徒会交流会を、7月28日（日）に南国市スポーツセンターで開催した。

③本年度もゲートキーパー養成研修を、夏季休業中と冬季休業中に開催する。夏季休業中は、南国市の関係機関の職員対象に開催し、南国市民対象の開催の足掛かりとする。

④各中学校の代表生徒や実践的防災拠点校の児童、南国市を担っていく教職員と東日本大震災の被災地である宮城県を訪問し、自分たちの目で震災の状況や防災への取組、復興の様子を見たり、実際に地元の小中学校との交流をしたりすることで、防災について学ぶ機会を設けた。

【評 価】

①Q-Uアンケートでは、各学校での児童生徒理解のための研修や市教委の全学校訪問での聞きとりを実施する等、学校と市教委で情報共有を行い、共に分析・対策に役立てることができた。また、不登校等学習支援員を配置することで、教室に入ることが困難な生徒に対して個別指導や学習支援を行い、学級復帰を促すことができた。しかし、不登校等学習支援員を必要とする学校が増えてきているため、配置方法や人数、時間数等工夫が必要である。

②他校のいじめ防止の取組を、南国市全体で知り学ぶことのできる良い機会となった。しかし、今年度で県主催の取組は終了し、来年度から、南国市主催の取組が中心となってくるため、日程の調整や内容等、早期の検討が必要である。

③7月30日には、平成30年度までに受講済み教職員の希望者とともに、市の関係機関職員対象で開催し、31日には、平成30年度までにまだ受講されていない教職員を対象に開催できた【計：93名】。また、12月27日も、本年度7月の研修会時点で未受講者を対象に開催でき【計：28名】、12月の研修を終えた時点で、南国市勤務の教職員は100%受講済みとなった。また、本年度は、市の関係機関職員にも広げ、社会福祉協議会並びに民生児童協議会、主任・民生児童委員や、保健福祉センター並びに健康文化都市づくり推進委員会委員、食生活改善推進員、母子保健推進員。そして、JA高知県女性部、あったかふれあいセンター専門員の方にも出席していただき、教職員以外へも本研修の開催の周知や研修内容を広げることができた。しかし、次年度は、本年度の関係者にとどまることなく、もう少し広く南国市民へ広げて開催する必要がある。また、教職員に対しても2回目の受講を求めていき、児童生徒の「ゲートキーパー」になるための意識を高めていく。

④実際に被災した場所や復興してきた街並みを見たり、体験談を聞いたり、防災の取組について交流したりすることは、教材で学習したり、DVDを見たりすることだけでは感得することのできない貴重な体験となった。また、視察を通して感じとったことや考えさせられたことを各校に持ち帰り、各校での防災意識を高める取組へとつなげ、最後には、南国市長に報告することができた。しかし、今年は、学校閉庁日やその他の研修との兼ね合いもあり、訪問前に事前研修を1回しか行うことができなかった。来年度も学校閉庁日や2学期の始業開始が早まる学校があることから、時間の設定が難しいことが予想される。早めの学校、保護者との打ち合わせ、講師や研修場所の確保を行う必要がある。

安心・安全な
学校プロジェクト

(指定校：管内小中学校)
※地域アクションプラン
補助対象事業

<p>南国市人権教育研究大会 (管内保幼小中高等学校等)</p>	<p>成 果 度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="797 73 938 256"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>												●					<p>【取組内容】 ◎市民一人ひとりが人権問題解決に向けて主体的に行動する力を育成するために、学校現場（保育所（園）・幼稚園・小中高等学校）や行政、それぞれの職場・地域で取り組まれている人権確立に向けての具体的な実践を交流し、日々の生活に根ざし、地域と結びついた人権教育の充実と発展を目指す。 ○分科会における実践報告は、保育所（園）3本、小学校12本、中学校4本、青年団1本、合計20本の実践報告により情報共有を図り、保幼小中の取組について交流した。本年度も昨年度と同様、助言者10人を確保し、様々な分野からの専門意見を聞いた。（8/22） ○午後の研修会は、岡田敏之氏（京都教育大学教職キャリア高度化センター）による講演会【演題：「人は何故学ぶのか」～昼と夜の学びを結ぶ実践を通して見えてきたこと～】を行った。</p> <p>【評 価】 ・分科会においては、保幼小中のそれぞれの立場でグループとなって意見交流ができ、異校種の先生方と立場の違った視点で共有しながら話し合う等、連携の良い機会となった。しかし、各分科会で人数の偏りはなかったが、校種による偏りがまだあった。バランスよく分かれることで、各グループでの協議内容がさらに深まると考えられる。午後の研修会では夜間中学校について具体的に詳しく知ることができ、取組や現状を理解することができる良い機会となった。</p>
			●															
<p>不登校対応等担当者会 (管内小中学校)</p>	<p>成 果 度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="797 616 938 799"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>												●					<p>【取組内容】 ◎不登校対応の中核的な働きをしている小中学校の担当者が一堂に会し、学校相互の不登校対応に関する情報交換を行い、全市的な不登校対応の一層の充実・強化を図る。 ○各学校担当者（代表）、ふれあい教室、教育研究所、市教委（指導係）、SSWを担当者会メンバーとする。 ○担当者を集めての研修及び小中連携による情報共有を行う。吉本 恭子先生（高知市立城西中学校校長）による講演・グループ協議を実施した。（8/8、11/14）</p> <p>【評 価】 ・不登校児童生徒に関わる担任を含めたチーム支援の在り方について理解を深め学ぶことができた。その中で、時間のない中で効率的に行う支援会議の持ち方について等、参考になるものが多かった。しかし、南国市の中学校の現状として、不登校児童生徒の割合はまだまだ多いものとなっており、要因も多様化かつ複雑化しているケースも増えてきている。学校や委員会、様々な機関でのさらなる連携強化が必要となってくるとともに、再度小中学校で、「子どもたちにとって本当に魅力のある学校」になっているか、教科学習をはじめ、学校行事や、特に中学校では部活動の取組も含めて、各校全教育活動を見直していく必要がある。</p>
			●															

③心の教育を支える保育
・指導の充実

<p>スクールソーシャルワーカー（SSW）活用事業 （管内保幼小中学校）</p>	<table border="1"> <tr><td>成</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>果</td><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td>度</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>↑</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>	成					果				●	度					↑					<p>【取組内容】</p> <p>◎学校だけの対応及び支援では、学校復帰等の改善が図りにくい児童生徒に対して、学校や教職員への支援及び保護者・児童生徒への直接的な支援を行う。（平成20年度から実施）</p> <p>○加藤SSW（鳶ヶ池中ブロック）、西山SSW（香長中・香南中ブロック）、奥宮SSW（北陵中ブロック）が学校の対応が困難なケースに優先順位をつけながら対応を行う。</p> <p>○就学前の子どもたちへの支援として、西山SSWと奥宮SSWに週2回程度、保育所（園）・幼稚園の保育士や保護者とかかわってもらい、小学校へのつなぎを行っている。また、保健福祉センターやこども相談係などとも連携し、多面的・多角的な支援をする。</p> <p>【評 価】</p> <p>・学校や関係機関と密に連携を図ることにより、保護者や児童生徒と学校との関係性の改善に努めることができている。また、保幼小の連携において、幼保の情報を小学校に具体的に伝えることで、課題の検討やその他専門機関の介入などの準備を行えている。しかし、保幼小中の連携の情報共有がスムーズに行えていない現状がまだまだある。保幼小中に、SSWとしての働きや役割などをさらに周知し、学校や関係機関との役割分担を明確にして、より適切なアセスメントの必要性がある。</p>
成																						
果				●																		
度																						
↑																						
<p>教育支援センター （ふれあい教室） 旧：適応指導教室</p>	<table border="1"> <tr><td>成</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>果</td><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td>度</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>↑</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>	成					果				●	度					↑					<p>【取組内容】</p> <p>◎南国市内に在住する不登校や不登校傾向の児童生徒に対し、主体性を大切にした学習や体験活動を通して「心の居場所」をつくり、集団生活への適応と自立を促すための援助や取組を行う。（室長1名・指導員2名・SC1名）</p> <p>○運営委員会（2回）第1回7/16、第2回2/18</p> <p>○連絡会（3回）4/25実施、10/8、3/4 臨時連絡会（2回）9/12、12/26</p> <p>○夏季休業小中学校訪問：市教委と研究所長で全学校訪問し聞きとりを実施。</p> <p>○ふれあい夏季教室の開催（5日間） 8/26～8/30</p> <p>【評 価】</p> <p>・「ふれあい教室」の周知ができてきており、昨年度は年間で7名の通室状況であったが、今年度は12月末時点で10名以上の通室状況があり利用者も増えてきている。また、学校に行きづらい子ども達を対象に、2学期をスムーズに迎えることが出来るように、「ふれあい夏季教室」を本年度初めて実施することができた。しかし、利用者が増えてきている現状等、児童生徒の「居場所づくり」としては成果も出てきているといえるが、指導員の不足や運営方法等での課題が見られた。</p>
成																						
果				●																		
度																						
↑																						

<p>学校図書館を活用した「読み」を鍛える拠点校事業 (平成30・令和元年度) (県指定校：十市小学校)</p>	<p>成果度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="797 73 938 256"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>								●									<p>【取組内容】</p> <p>◎自己の考えを広げ深める子どもの育成～伝え合う力を育み、生かす授業づくり～をめざし、国語科において、自分の考えを形成する学習過程を基本として語彙指導の改善や学校図書館を活用する授業を展開することにより、言語能力や情報活用能力の身についた子どもを育てる。</p> <p>○講師：吉田豊香氏の招聘による研修を年3回行う。 全校研やブロック研で、江島敬一氏・片岡忠三氏・中部教育事務所から講師を招聘し、研修を深める。</p> <p>・5/22(水)4年 ・5/28(火)1年 ・6/26(水)1年 ・7/3(水)6年 ・11/6(水)2年 ・11/12(火)2年(研究発表会)</p> <p>○「つなぎのこぼ」の可視化、活用することで言葉の力を育てていく。</p> <p>○学校図書館や新聞を活用した授業の展開を行い、情報活用能力を身に付けていく。</p> <p>【評価】</p> <p>・平成31年度全国学力学習状況調査 国語では十市小は全国平均点より高く、授業においてもほとんどの児童が自分の考えを持ち、その考えをノートに記述できている。しかし、言語能力及び情報活用能力の活用を意識して、日常生活の中や各教科等とどう関連付けて単元構想していくのが課題である。</p>
			●															
<p>夢・志を育む学級経営のための実践研究事業 (平成29～令和元年度) (県指定校：長岡小)</p>	<p>成果度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="797 616 938 799"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>								●									<p>【取組内容】</p> <p>◎平成29年度より3年間の指定事業において、児童生徒の自己指導能力を育成するため、学校行事や児童会活動を充実させ、児童生徒の自治活動等を活性化するとともに、学級での話し合い活動や主体的に活躍できる場を充実させる等、自尊感情、自己有用感を育む「開発的な生徒指導の視点」を位置付けた教育活動を組織的に展開することで、チームによる学級、学校運営を実現する。また、実践成果等を県内へ普及する。</p> <p>○今までに長岡小が事業として取り組んできた「特別支援教育」を土台とし、その上に「授業改善」と「学級活動」を両輪として、より質の高い授業を求め、児童の学力の向上を図っていく。</p> <p>○杉田教授訪問 ・5/20 ・8/30 ・10/18 ・2/10</p> <p>○心の教育センター訪問 ・6/13 ・8/8 ・10/31 ・12/5 ・2/27</p> <p>【評価】</p> <p>・3年目の事業として、学校行事や児童会活動を充実させ、学級での話し合い活動や主体的に活躍できる場を充実させる等、自尊感情、自己有用感を育む「開発的な生徒指導の視点」を位置付けた教育活動を組織的に展開することができている。また、実践成果等を県内へ普及することもできている。しかし、様々な理由から学年や学級で少し差が出てきている。今後、さらなるチームによる学校運営、学級経営を実現するため、「特別支援教育」を土台とし、その上に「授業改善」と「学級活動」を両輪とした取組が必要である。</p>
			●															

	<p>道徳教育拠点校事業 (岡豊小：授業づくり講座)</p>	<p>成 果 度 ↑</p> <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>								●									<p>【取組内容】 ◎岡豊小が高知県の拠点校となり、道徳科の時間を軸とした組織的な授業改善を推進することで、日常的に授業研究に取り組む風土づくりを行い、自ら学び続け、共に学びあう教員を育成する。 ○「考え、議論する」道徳授業のイメージの共有や、考えさせたいことの明確化、児童生徒の多様な発言を生かす授業展開を目指す。 ○授業づくり講座を、次のとおり2セット開催する。【講師：高知大 森有希 准教授】 【1セット】・5/28（教材研究会） ・7/11（授業研究会） 【2セット】・10/17（教材研究会） ・11/19（授業研究会）</p> <p>【評 価】 ・岡豊小が拠点校となり、「誠実に価値と向き合い、道徳としての問題を考え実践する子どもの育成」をテーマに、効果的な指導や評価の在り方について研究し、取組を県内へ普及することができた。しかし、多くの先生方の参加があり、有意義なものとなったが、道徳推進教師を中心にその学んだ内容をそれぞれの学校で、全教員にどのように周知していくのが課題である。</p>
			●																
	<p>食育推進事業</p>	<p>成 果 度 ↑</p> <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td>●</td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>							●										<p>【取組内容】 ◎南国市食育推進計画（行動計画）に基づき、各校の特色ある食育を推進する。 ○食の自立をテーマに、高学年においては、「お弁当づくり」を実施している。</p> <p>【評 価】 ・各校地域の方の協力も得ながら各学年に応じて、つくり育てるところからの食育を実践したり、家庭科や学校行事の中で南国市の野菜を使った料理を考えたりしながら、「食」への意識も高める取組ができています。また、高学年においては、中学校生活に向けた食の自立に向けた「お弁当作り」も継続して行っている。</p>
		●																	
<p>④健康で豊かな生活を拓く 保育・教育の充実</p>	<p>米作り親子セミナー (久礼田、国府、奈路)</p>	<p>成 果 度 ↑</p> <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td>●</td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>							●										<p>【取組内容】 ◎農業体験を通して、景観・環境保全を含めた棚田での稲作農業の位置づけと重要性について学習するとともに、学校給食米の生産現場を親子で確認して生産農家との交流を通じて農業と食育への理解を深める。 ○今年度は国府小5年生、久礼田小5年生、奈路小全児童を対象に行う。 ○場所：上倉学習田 内容：田植え体験6/6 稲刈り10/3開催。 ○米作り親子セミナー交流会：毎年参加校が地元農家の方たちと交流会を行っている。</p> <p>【評 価】 ・田植えや稲刈りの体験を通して、普段自分たちが食べている給食のお米がどのように作られているのか興味を持ったり、他校との交流を図ったりすることができた。しかし、セミナー参加校の中には、地元の農家の方と連携して田植えや稲刈りを別で行っている学校がある。学年を変えて工夫をするなどしているが、体験としてはほぼ同じ内容を行っている学校もある。</p>
		●																	
	<p>実践的防災教育 推進指定事業 (県指定校：後免野田小) ※平成30・令和元年度 県指定事業</p>	<p>成 果 度 ↑</p> <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>				●													<p>【取組内容】 ◎保育所、小学校、中学校が連携し、災害発生時に子ども自身が主体的に安全を確保するための判断力や行動力を育成するための指導方法の研究開発を行う。また公開授業、研究発表会、講演会を通じて、実践的防災教育の普及や啓発活動を進める。</p> <p>○内容 ①地域や関係機関との連携防災実践委員会の開催（年間3回）。 ②防災意識アンケートの実施（年間2回）。 ③効果的な避難訓練の実施（様々な場面や状況を想定して複数回実施【12回】）。 ④学校安全計画、危機管理マニュアルの見直し。</p>
			●																

		<p>○実践的防災教育推進事業の研究発表会（11/24（日）授業研・講演会）を行う。</p> <p>【評 価】</p> <p>・繰り返し行った避難訓練では、災害に対して児童が主体的に動く姿がみられるようになり、岩沼市への視察や交流などを通して、防災に対する視野が広がり、防災への意識や地域力の高まりも見られた。しかし、学校行事や学級・総合的な学習の時間を活用して日々の取組が行われているが、ここで培われた力の活用を意識して各教科とどう関連付けて構想していくのが課題である。</p>
--	--	---

特別支援保育 ・教育推進事業	<table border="1"> <tr> <td>成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>果</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>↑</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>→重要度</p>	成				●	果					度					↑					<p>【取組内容】</p> <p>◎保育園・所等を訪問し、幼児の見取りを行うとともに、管内の保育園・所、幼稚園の職員への研修の充実を図る。</p> <p>○親育ち・特別支援保育コーディネーターを1名配置し、研修会への参加や幼児・園児の見取りを行う。</p> <p>【評 価】</p> <p>・就学にむけて気になる幼児の見取り等、指導主事と連携を図り複数の視点から様子を見とり、より適切な就学指導に活かすことができた。また、各保育所・園をまわりながら、小学校入学にあたってのより良い姿の在り方を職員と共有したり、親育ち・特別支援保育コーディネーターの幼児一人ひとりの見取りを保育所・園の職員と共有し、保護者と小学校入学に向けて、保護者をサポートする意識もより一層見られたりし、幼児のより良い小学校入学につなげることができた。しかし、今年度はSSWとも連携を開始したが、年度後半に開始したため、できることに限りがあった。次年度は年度当初から打ち合わせを行い、幼児の見取りを行なっていく。</p>
	成				●																	
果																						
度																						
↑																						

⑤子ども一人一人を大切にする特別支援教育の充実	<table border="1"> <tr> <td>成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>果</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>↑</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>→重要度</p>	成				●	果					度					↑					<p>【取組内容】</p> <p>◎実態に応じた適切な就学支援および教育支援を行う。</p> <p>○対象：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害児加配のついている5歳児 ・特別支援学級に入級している6年生 ・障害児加配が付いている幼児、特別支援学級に入級している児童、生徒 ・保護者が特別支援学級入級を希望する児童生徒 <p>○構成委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校長、教頭、特別支援教育に識見を有する小中教員、保育者代表、教育相談員（県の特別支援学校教諭、市内特別支援学校教諭、専門医師、南国市教育委員会（保健師がオブザーバーとして参加） <p>○教育支援委員会開催予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回教育支援委員会（6/28） ・第2回教育支援委員会（8/16） ・第3回教育支援委員会（10/11） ・第4回教育支援委員会（12/13） ・第5回教育支援委員会（2/14） <p>○方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所長・園長との連携 → 保護者等と面談 → 教育相談（各種検査・聞き取り）の実施 → 教育支援委員会での判定と助言 → 保護者への結果説明 → 特別支援学級入級への編制計画の作成。 <p>【評 価】</p> <p>・本年度より結果返しの変更をやむを得ず行わなければならなかったが、教育支援委員会で助言をいただくことで、結果返しの際に保護者に付帯意見をつけて説明を行うことができ、教育支援委員会の判断としての返しができる。しかし、結果返しの変更にともない、教育相談のスタートがお</p>
	成				●																	
果																						
度																						
↑																						

くれたことと、支援委員会にかける人数が増大したことで、保護者へ結果を返すまでの時間がかかったり、後半込み合う結果になったりした。

特別支援教育支援員の配置

成 果 度 ↑				
				●

→重要度

【取組内容】

◎南国市立幼稚園および小中学校に在籍する発達障害（学習障害〈LD〉、注意欠陥/多動性障害〈ADHD〉、高機能自閉症など）等、学習や生活において教育上特別な個別の支援を必要とする児童生徒に対して、担任と共にサポートするための特別支援教育支援員の配置をする。

○個別の支援を要する児童生徒が増加していることと、さらに、インクルーシブ教育の理念のもと特別支援学校を選択するのではなく、一般校の入学等を希望される保護者も増え、多様且つ専門的な対応を必要とする学校が増えてきている。

【評 価】

・成果：教育上支援を必要とする児童生徒に対して、支援員を配置することで、きめ細かな支援をいれることができた。しかし、支援を必要とする児童生徒の増大により、支援員の数が絶対的に不足している。また、担任の多忙さから支援員との細かな部分での連携が図り切れずに、教員・支援員・児童生徒の三者に関する「教員と支援員」間でのトラブルも少なくなかった。

(2) 生涯学習に関すること

中項目	小項目	点検・評価																	
①地域全体で学校教育を支援する体制づくりの推進	地域学校協働本部事業	成果度 ↑ <table border="1" data-bbox="797 196 938 371"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> →重要度								●									【取組内容】 ○本年度から新たに十市小学校、大篠小学校、国府小学校、久礼田小学校で実施を開始した。事務局としては、統括コーディネーターとともに学校と連携が円滑に行えた。当事業では、地域が学校と連携して子どもの見守り、授業補助、放課後等の学習支援を行うことで、地域・家庭の教育力を向上させ、教員が子どもに向き合う時間を確保することを目標としている。 【評価】 ・令和2年度は中学校4校も実施することにより、南国市の全小中学校で設置が完了する。県の目標より2年早く目標を達成できることは、統括コーディネーターとともに円滑に学校と事務局との調整を行っていることと、当事業が地域、学校に浸透してきたことと評価できる。今後さらに地域と学校が協働して子どもの健やかな成長を見守る体制を構築できるよう、力を注ぎたい。
			●																
家庭教育支援基盤形成事業	成果度 ↑ <table border="1" data-bbox="797 544 938 719"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> →重要度								●									【取組内容】 ○家庭の教育力向上を目的とし、安心して子育てができるように支援する事業である。「早ね早おき朝ごはん」運動などの啓発により、子どもの規則正しい生活習慣を身につけ、健康を守ることもつながるものである。 【評価】 ・夏休みに実施している和装礼法親子教室（大篠公民館）では、単に浴衣を着付けるだけでなく、家庭で学ぶ機会の減っている礼儀作法を親子で学べると好評である。 ・就学時健診時、新1年生の保護者を対象に、子どもの成長に必要な生活習慣づくりや、親子の関係づくりの大切さなどを知ってもらうための講話を行い、新学期を安心して迎えられるための助けになっている。	
			●																
	公民館活動事業	成果度 ↑ <table border="1" data-bbox="797 887 938 1062"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> →重要度								●									【取組内容】 ○南国市立18公民館（17地区公民館及び中央公民館）の事業支援や施設管理を行っており、平成30年度の17地区南国市立全公民館利用者数は延べ113,764名である。 ○公民館は、地域住民にとっての身近な生涯学習施設というだけでなく、「地域コミュニティの拠点」としてもその役割が期待されている。地区公民館では、三世代交流や文化祭、講演会や各種サークル等、それぞれの地域性が生かされた事業が行われている。 ○公民館は、災害時の避難所に指定されており、「地域の防災拠点」としての役割も担っている。平成24年度に奈路防災コミュニティーセンター、平成26年度に三和防災コミュニティーセンター、後免町防災コミュニティーセンター、平成28年度に前浜防災コミュニティーセンターを建設した。新規事業：中央公民館と大篠公民館を合築した南国市中央地域交流センター（仮称）を文化的行事などが行えるホール機能を含む多目的施設として、令和3年度中に整備予定である。 【評価】 ・生涯学習を提供し情報共有できる公民館機能として十分に利活用されている。 ・平成31年度より実施している地域学校協働本部の活動拠点としている他、放課後こども教室として学校とも連携する、地域に根差した施設となっている。 ・南国市中央地域交流センター（仮称）に関し、令和元年度より敷地内の解体工事をしており、令和2年6月から令和4年3月の完成を目指し工事を進めている。 ・今後は、施設名や管理体制に関しパブリックコメントによる公募をし、市民に永く愛される施設づくりに励む。
			●																

②地域住民が主体的に学
び楽しむ生涯学習の推
進

<p>成人式</p>	<p>成 果 度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="795 71 938 255"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>								●									<p>【取組内容】 ○新成人の新しいスタートを式典とアトラクションで祝福し、社会人としての認識を高めることを目的にし、帰省者にも配慮し、1月3日に実施日を固定し式典を開催している。 【評 価】 ・式典に登壇する4名の成人代表者は、南国市立各中学校より選出し、毎年輪番制で、記念品贈呈（受取）と20歳のメッセージ（挨拶）にご協力いただいている。来賓には、新成人の小学6年及び中学3年時の担任教師もお迎えし、貴重な交流の場となっている。 ・本年度の対象者は学齢により、令和元年度は平成11年4月2日から平成12年4月1日までに生まれた方で、男性303名・女性242名 合計545名（令和元年12月1日住民登録数）であり、平成30年度は約370名程度の出席があった。今後も成人の門出を祝福するため継続するが、課題としては、2022年4月1日施行になる民法改正に伴う成人年齢引き下げにどのように対応するか、令和2年度には一定情報収集ならびに高校へのヒアリングを行う。</p>
			●															
<p>楽しい生きがいつくり講座</p>	<p>成 果 度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="795 480 938 663"> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>				●													<p>【取組内容】 ○年間を通じ、文化講座（22講座）として「NPO法人まほろばクラブ南国」に事業委託をしている。 ○高校・大学との連携事業として、高知東工業高校・高知高専と共に教養講座を実施している。 【評 価】 ・文化講座は、約200名の市民の方が受講し高評価であるが、マンネリ化しないよう事業内容の精査が必要である。 ・教養講座は市と学校が協定を結んでいることもあり、学校連携事業として今後も実施を続けていきたい。</p>
			●															
<p>高齢者教室事業</p>	<p>成 果 度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="795 799 938 983"> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>				●													<p>【取組内容】 ○65歳以上の南国市民を対象に教室生として公募し、市内8教室で年10回ずつ開催している。 ○健康教室や歴史教室・環境問題・交通安全など、様々な学習をしている。移動教室等、高齢者にとって 楽しみや生きがいとなっている。 ○令和元年度は、8教室で合計532名の学級生がいる。 【評 価】 ・各教室において学級長・会計等の役職を置くことにより、一定自主運営ができ市と連携を通じた活動が可能となっている。</p>
			●															

<p>③人権尊重の理念の普及 ・高揚を図るための啓 発事業の充実</p>	<p>人権啓発事業</p>	<p>成 果 度 ↑</p> <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>								●									<p>【取組内容】 ○スマイリーハート人権講座（高知県人権啓発活動委託事業） ○全5回の講座の実施（10～11月）により啓発を図った。参加者延べ282名。アンケートによると、満足度は80.24%。（なお、うち3講座は男女共同参画の内容とした） ○広報・人権学習シリーズの掲載では、人権啓発広報委員会の委員5名が交代で執筆を担当し、人権について様々なテーマで800字程度のコラムを、広報なんこくに毎月掲載した。12月号には、2020年東京オリンピックを意識し、「外国人の人権」について見開き2ページの人権特集を掲載した。その他、7月に人権パネル展を開催し、年末には高知県人権啓発活動委託事業として、人権カレンダーを作成・配布を実施した。</p> <p>【評 価】 ・高知県では高知県人権施策基本方針第2次改定版の基本方針の中で、10の人権課題に「性的指向・性自認」を加え、11の人権課題について具体的な人権教育・啓発の取り組みについて示していることから、南国市でも昨年に引き続き今年度もLGBTをスマイリーハート人権講座に取り上げた。受講者からは「大事な人権問題であることをあらためて認識できた」、「すべての人に理解ある対応ができるよう、今後も勉強していきたい」など前向きな感想が多く、満足度も高かったことから、理解を深めるために今後も継続したい。</p>
			●																
	<p>男女共同参画推進事業</p>	<p>成 果 度 ↑</p> <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>								●									<p>【取組内容】 ○南国市男女共同参画推進計画の一環として各事業を実施した。 ○スマイリーハート人権講座（全5講座）において、3講座で男女共同参画の視点に立ったテーマ設定を行い、啓発に努めた。 ○市内小中学校4校に置いて男女共同参画推進出前教室を行い、小学校では高学年向けに、初めて触れる「男女共同参画」について、中学校では「デートDVって何？」をテーマに授業を行い、日常の中で考えるきっかけとして啓発した。 ○広報2月号には、今年度の南国市による男女共同参画推進のための取り組みについて、見開き2ページの特集を掲載した。</p> <p>【評 価】 ・今年度、初めて南国市生涯学習課の職員が講師となり、小学校で出前教室を実施した。子どもたちは「市役所の人に来てくれた」と喜んでくれたことから、市役所が身近な存在に感じてくれたのではないかと。また、性別に関係なく、自分らしく生きていくことの大切さを伝える内容にしたことから、出前教室後のアンケートで「心の中のことが全てとけたような気がします」と書いてくれた児童もあり、出前教室を実施した意義を感じることができた。今後も、すべての子どもたちが自分らしくいきいきのびのび生きていけるよう、力を注ぎたい。</p>
			●																
	<p>市民体育大会</p>	<p>成 果 度 ↑</p> <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>								●									<p>【取組内容】 ○第57回市民体育大会を7/7～11/2の間、15種目、延べ1,303名が参加して実施した。</p> <p>【評 価】 ・小中学生が出場できる種目もあり、広報などを通じて今後も参加を広く呼びかけることにより、成長過程にある少年競技の競技力の向上と子供たちの意欲の向上につながるよう引き続き取り組んでいく。近年、生涯スポーツに対する市民の意識は高まっており、今後もスポーツの裾野を広げるために、スポーツ協会と協働し、今後も初心者でも気軽に参加できるスポーツフェア的な大会として展開していきたい。</p>
			●																

④魅力あふれる市民スポーツの振興

<p>スポーツ推進委員連絡協議会等と連携したニュースポーツ及び生涯スポーツの普及・総合型スポーツクラブとの協働</p>	<p>成 果 度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="797 73 949 256"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>								●									<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「さわやか健康ウォーキング大会」（10月14日開催 参加：25チーム99名）、「スポーツフェスティバル」（2月11日開催 参加76名）を開催している。 ○総合型地域スポーツクラブ「まほろばクラブ南国」に南国市スポーツ推進委員連絡協議会会長が理事として参加し、組織としてイベントに積極的に協力している。生涯スポーツのコーディネーターであるスポーツ推進委員は、総合型クラブにおいて中心的役割を占めており、今後も情報の共有化を図る事が大切である。 ○総合型地域スポーツクラブ「まほろばクラブ南国」は、南国市スポーツ協会や南国市スポーツ推進委員連絡協議会等の協力を得て、市民や地域に活動の輪を広げている。令和元年12月24日現在、昨年同時期より9サークル増の53サークル、会員数は36名増の1,025名となっている。 <p>【評 価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から第2期高知県スポーツ推進計画ver.1の施策の柱の1つであるスポーツ参加の拡大のための地域スポーツハブの取り組みを開始している。誰もが気軽にスポーツを楽しむことができることを目的とした生涯スポーツの普及と振興のため、総合型地域スポーツクラブ「まほろばクラブ南国」を核として、スポーツや福祉関係団体等が連携し、スポーツに関する情報の一元化や提供などを行うことにより、ライフステージに応じたスポーツ活動を推進する。今後も教育委員会との連携した取組が重要である。
			●															
<p>スポーツ協会との連携による競技スポーツの振興と競技力の向上</p>	<p>成 果 度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="797 643 949 826"> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>				●													<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高知県予選を経て全国大会に挑む団体に対し、全国スポーツ大会参加補助金を助成している。 ○小学生駅伝競走大会（10月10日実施）は、29チーム218名の参加申込があった。 ○南国市駅伝競走大会は2月実施予定である。 ○その他、各連盟と連携して相撲大会（参加申込：14チーム58名）、市長杯南国市小学生野球大会（参加：8チーム）、高知県勤労者剣道大会（参加：54チーム）、高知県柔道大会（参加：39チーム219名）等を開催した。 <p>【評 価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南国市における競技スポーツの振興と競技力向上において、全国スポーツ大会参加補助金の助成や競技大会の定期的な開催は、選手の目標となり、励みにもなるので継続的な取組は必要と考える。
			●															
<p>補導活動</p>	<p>成 果 度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="797 1015 949 1198"> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>				●													<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年間を通じて登下校の時間帯に合わせて青色回転灯パトロールカーで各校区を巡回し、児童・生徒等への声かけを行うとともに、夏休み期間中には子ども達の深夜徘徊等がないかパトロールを強化した。また、学校等から喫煙や怠学等の連絡があれば、その都度関係機関と連絡を取り合い対応した。 <p>【評 価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒への青色回転灯パトロールカーの認識度は上がっており、今後も巡回パトロール等継続した活動を行っていく。
			●															

⑤地域における青少年健全育成活動

<p>相談活動</p>	<p>成果度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="797 73 938 256"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>								●					<p>【取組内容】 ○福祉事務所こども相談係や警察等関係機関と情報共有を図りながら業務にあたった。</p> <p>【評 価】 ・福祉事務所こども相談係が相談窓口となるのがほとんどではあったが、今後も情報共有を図り、問題解決への道筋をつけていくことは重要である。</p>
			●											
<p>環境浄化活動</p>	<p>成果度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="797 320 938 504"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>								●					<p>【取組内容】 ○市内に5ヶ所設置されている「白いポスト」に投函された有害図書及び有害ビデオ・DVD等の回収（有害図書75冊、有害ビデオ・DVD227点・11月末日現在）を行った。また、市内にある地下道等が落書きや溜まり場になっていないか巡回パトロールを実施した。</p> <p>【評 価】 ・有害図書等を青少年の目に触れさせないためにも、白いポストの設置個所を広報等で周知するとともに、市内を定期的に巡回し、子ども達に悪影響を与えるものについては関係機関と連携しながら排除していく活動を継続して行う。</p>
			●											
<p>調査研究活動</p>	<p>成果度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="797 603 938 786"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td>●</td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>							●						<p>【取組内容】 ○補導教員・補導専門職員合同連絡協議会主催の研修会、高知県少年補導育成センター連絡協議会及び東部ブロック会、四国地区少年補導センター連絡協議会「徳島大会」に参加し、子ども達の健全育成及び非行防止について理解を深めた</p> <p>【評 価】 ・他市町村の取り組みや活動内容を共有することで、本市における子ども達の健全育成や非行防止に資する取り組みができると思う。</p>
		●												
<p>広報活動</p>	<p>成果度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="797 858 938 1042"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>								●					<p>【取組内容】 ○子ども・若者育成支援強調月間パレード（11月1日：参加者61名）や年末非行防止街頭パレード（12月3日：参加者51名）で子ども達の健全育成・非行防止について市民に広報しながら市全域・市内中心部を巡回した。また、南国市更生保護女性会と合同で青色回転灯パトロール車に市内を巡回し、下校時の子ども達の見守りを行った。少年育成センター便りを発行し、青少年健全育成の啓発を呼びかけた。（3月発行）</p> <p>【評 価】 ・市民に広く子ども達の健全育成・非行防止を広報することで、地域ぐるみでの見守り活動等につなげていくためにも、当活動は今後も継続していく。</p>
			●											

	健全育成活動	成果度 ↑ <table border="1" data-bbox="795 71 940 255"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> →重要度					●																<p>【取組内容】</p> <p>○南国市青少年健全育成大会（9月7日：参加者137名）では、小学生・中学生・高校生合計14名の意見発表と2名の善行表彰を行い、健全育成に対する理解と関心を深めた。また、南国市子ども会連合会はカヌー教室、どきわくアドベンチャー、ドッチビー大会、手びねり体験教室、人形劇キャラバンなどの行事を実施した。</p> <p>【評価】</p> <p>・青少年健全育成大会は児童生徒が日頃感じたこと、思ったことを発表する場として定着している。また、来場者もその発表に感動し、今の子ども達についての現状を知る良い機会となっている。子ども会連合会の行事は連合会に加盟する小学校は少なくなっているものの、それぞれの行事には多くの参加があり、子ども間同士や親子の交流に寄与していることから、今後も継続は大切であると考え。</p>
				●																			
⑥心を育む読書活動の推進、住民の求める情報の提供	図書館活動	成果度 ↑ <table border="1" data-bbox="795 454 940 638"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> →重要度					●																<p>【取組内容】</p> <p>○図書館40周年記念事業として、幅広い年齢層を対象とした講座や行事を開催した。</p> <p>○就学児童施設や学校への団体貸出について「保育学校支援図書貸出事業」として確立し周知した。</p> <p>○「おはなし会スタンプカード」を配布し、おはなし会に子どもが何度も参加したくなるよう取り組んだ。また、未就学児童施設や学校、地域のイベント等へ出向きおはなし会を実施した。</p> <p>【評価】</p> <p>・児童サービスを継続して実施するとともに、幅広い世代を対象とした事業を展開する。</p>
				●																			
	美術展覧会開催	成果度 ↑ <table border="1" data-bbox="795 734 940 917"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> →重要度					●																<p>【取組内容】</p> <p>○第59回南国市美術展覧会を12/8～15に実施し、一般の部は展示数220点、児童・幼児・生徒の部は展示数3,863点となり、入場者数5,219人であった。</p> <p>【評価】</p> <p>・一般の部において、展示作品に幅をもたせるために招待作品の展示案なども実行委員会で論議されるが、招待対象者や招待方法が具体的に決定できない等が課題となっている。また、大人と子どもの同時開催は県内でも珍しく、文化活動の拠点施設として令和4年3月竣工予定の中央地域交流センター（仮称）も利活用していきたい。</p>
				●																			
	文化財の保存、活用事業	成果度 ↑ <table border="1" data-bbox="795 1013 940 1197"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> →重要度					●																<p>【取組内容】</p> <p>○文化財審議委員会を開催し、将来にわたって残すべき文化財の指定を行っている。</p> <p>○市内の指定文化財を年2回パトロールして、保存状態などを確認している。</p> <p>○指定文化財を訪れた人が分かりやすいように説明看板を設置し、適宜補修をしている。</p> <p>○文化財を広く知ってもらうために広報誌への掲載や、出版物を作成して配布や販売を行なっている。</p> <p>【評価】</p> <p>・市内の指定文化財をはじめとした各種文化財の保護・普及啓発のために継続して事業を行なっていく。</p>
				●																			

⑦地域性豊かな市民文化の創造

<p>オナガドリ保護増殖事業</p>	<p>成果度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="797 73 938 256"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>								●									<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国の補助事業を受け、種の保存と増殖に関わる研究や飼育者の負担を軽減するために飼料の配布事業を行っている。 ○パンフレットの配布や大篠オナガドリ保存会と協力して紹介などを行い、啓発普及するとともに新たな飼育者の募集を行っている。 ○オナガドリの飼育と保存のための協力謝金を給付している。 ○最良種の作出に寄与するため、DNAの解析成果をもとにした人工授精を行う。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別天然記念物である土佐のオナガドリの保護・増殖のために継続して事業を行なっていく。
			●															
<p>市内遺跡発掘調査等事業</p>	<p>成果度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="797 400 938 584"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>								●									<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各種開発行為から市内の遺跡を保護するために、情報収集、事業者との協議、試掘確認調査、工事立会などを実施している。 ○市内の重要遺跡の範囲や内容を確認し、保存と将来の史跡整備に向けての資料の蓄積を行っている。調査成果は現地説明会の開催や発掘調査報告書の作成、広報誌への掲載等により広く伝える手段を講じている。 ○史跡土佐国分寺の寺域を確認し、将来の追加指定を目指すために、県内外の有識者による土佐国分寺跡調査指導委員会を設置し、委員会に基づいて試掘確認調査を実施した。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内に数多く残されている遺跡の保護と開発事業との調整を図るために継続して事業を行なっていく。
			●															
<p>文化財講座の開催</p>	<p>成果度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="797 780 938 963"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→重要度</p>								●									<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本年度は、『土佐の戦国 吾南の抗争』をテーマとして歴史学講座を開催し、高知市（長浜・春野町地区）・土佐市に関する史跡学習を行った。最終回には各地区城跡・古戦場跡等、ゆかりの史跡を訪ねた。参加者30名。 ○郷土学講座を開催予定。 <p>文化財についての興味関心を育てるとともに、知識を得る場としてフィールドワークも兼ね、2月頃行う予定。</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化財の最新の研究成果を広く市民に伝え、文化財への興味・関心を育むために継続して事業を行なっていく。
			●															

総合評価

1. 「1 教育委員会の活動」及び「2 教育委員会が管理・執行する事務」について

○全般的に概ね取組ができています。

○事務局がワンチームとなって、それぞれの立場で精いっぱい目標達成のための努力を続けてきている。

○全体的に取組ができています。学校訪問の内容については、学校管理職と事務局を含めた教育委員会との、より良い協議ができる体制づくりに努め、さらなる相互理解、信頼関係の構築に努めていきたい。また、教職員・子どもたちへの、より深い実態把握と理解に努めたい。

○学校訪問では、各学校や幼稚園、保育園（保育所）の現状が把握でき、学校経営方針（学力向上・生徒指導）・危機管理体制などの説明は十分受けられたと思う。学校訪問の再検討も進んでおり、より効率的で実のある学校訪問になるよう期待している。

○年度初めの学校訪問については一定の検討が進められた。何を目的として実施するかということについて議論され、運営方法を一部改善すると決定した点で評価できる。各学校の当初課題を校長等がどうとらえ、どのような方策でどう解決していこうとしているのか、地教委にはどのような支援や援助を期待しているのか等について知る機会だと認識していた。現実には必ずしもそのような場になりえていないと感じていたので、本年度取り上げられたことに感謝したい。なお、継続的に検討を行い、より有意義な訪問になるよう取り組んでいていただきたい。また、各学校のその後の取組の経過については学校行事や研究発表会などの場がセットされてはいるが、その後情報を適宜伝えていただけると（直接訪問はしにくいし、また、行事や発表会の場面からは平素の状況や課題改善の様子について情報を得ることが困難）委員としてはありがたい。

○定例教育委員会は朝の1時間の設定であるので、議題が少ないときには残り時間を使って情報提供や意見交換等に使っていただけないかとずっと考えていた。教育委員が本市の教育行政上の情報を得る機会にできるのではないかと。

○「南国市ふれあい教室」は南国市役所北側NOSAI土佐倉庫に移転することが決まったが、経緯や途中経過等についての情報はあまり示されなかった。また、「南国市教育支援センター」と名称変更もされた。これについても十分な説明がされたとは思わない（名称が変わったことは伝えられた）。南国市内の不登校児童生徒への対応をどうするのかという点も含め、「南国市教育支援センター」の必要性は認識し、設置について提案してきた経緯がある。なお、取り急ぎ移転を先行させるというのであれば、関係する条例や規則等における名称等の変更手続きだけは抜き行わなければならないし、今後早急に「南国市教育支援センター」の体制や活動内容等の充実について検討が必要である。

○（5）の支援員等の人員配置は学校現場にとっては大変ありがたい配慮である。予算面の限度もあろうが、可能な限り配置が必要である。

○（6）の教職員の異動については市教委単独で実施できないことではあるが、人事結果が学校経営に大きな影響を与えることでもあるので、なお一層学校長との情報交換の上、進めていく必要がある。さらに、管理職の一斉交代という人事は可能な限り避けなければならない。管理職二人がその地の人を知らずに学校経営を進めるということは、当初において相当な緊張感と重要事態の際のロスを大きくする懸念がある。

2. 「3 教育委員会が管理執行を教育長に委任する事務」について

(1) 就学前の保育・教育、学校教育に関すること

①就学前の保育・教育について

○全体的に概ね良好であり、取組ができています。

○たちばな幼稚園の、保育無償化などの影響が懸念されている。南国市行政計画審議会や子ども・子育て会議でも、たちばな幼稚園の今後を心配する声が聴かれている。「素晴らしい園」との評価だからこそ、保護者の就労状況の変化などにより、入園者数が減ってしまうのは残念である。何とかならないのかというご意見がある。幼稚園であっても、今の保護者のニーズに合った延長保育・長期休業中の保育など、保護者のニーズを調査し、今後の運営の在り方を早急に検討していく必要があり、時代の流れに合った受け入れ体制の整備は必須である。また、たちばな幼稚園の素晴らしさを、もっと多くの保護者に知っていただく取組（ホームページ等）を考えなければならない。

○たちばな幼稚園については、その保育・教育活動の充実ぶりが素晴らしいと評価している。その内容は特別に目立つ活動を強調するようなものではなく、子ども一人ひとりをよく見つめ育てていくという、本来あるべき姿を教職員全体で実施していくものである。南国市内の就学前保育・教育を考えた場合、モデルの一つとして高い評価が与えられ、このような保育・教育を市全体として志向するよう推奨されていいものだと考えている。しかし、幼稚園であるが故の長期休業や幼保無償化等の影響からか、入園志望者数の急な減少という事態が起こっている。市教委としても幼稚園や保護者・地域との協議などを通して早急な対応策の検討をお願いしたい。

○就学前の保育・教育について、南国市として統一的に指導できる体制の構築を強くお願いしたい。

○就学前の保育・教育に対しても、多様化する保護者のニーズへの対応や、特別な配慮・支援の必要な幼児への対応も適切に出来ていると思われるが、今以上にS
SWなども活用し、多様化する保護者への対応・体制を整備する必要がある。

○地域に愛される幼稚園・保育所（園）づくりが推進され、保幼小の連携のあり方（情報の伝達や連携）についても取組が進んだ。

②学校教育について

○ゲートキーパー養成研修の「教職員ほぼ100%」受講済みは、素晴らしい取組である。ただ、研修を受けても現場でゲートキーパーとして機能しなければ意味がない。日常的に児童の実態を見取れていなければ難しい。信頼関係を築けてこそ、いざという時にゲートキーパーになれるのだと思う。「自殺のサインに気付ける」ことを考えるのも大切だが、自殺を考えなければいけないような心の状態になる前に手を差しのべられる教員の力が求められている。これからは「生きる力」を育てる教育を、今一度考えていきたい。

○各学校ともにそれぞれ課題解決に取り組み、成果が出てきている様子を感じている。今後も努力を継続していただきたい。

○若年教員の増加に伴い指導力向上が喫緊の課題だが、諸々の困難な状況の中で少しでも指導力を高め、意欲を持って教職に励もうとする人材を育成することが現場（各学校）に求められている。本市では「学力の向上等を図る」関連の事業は非常に多い。その事業への取組を進めながら児童生徒の育成に努力を重ねているのが現状である。本年度、南国市教育研究会が活動休止となったが、その理由のひとつに教員の多忙な状況がある。児童生徒の育成と同時に、若年教員の育成も課せられているのが今の学校である。

○上記の事とも関連があるが、「学力テスト」中心で進めるとテストから除外されている教科等の指導に習熟することが難しくなるのではないかと懸念を持つ。南国市教育研究会がそれを補う場であったが、それも休止状態である。そこで、市内各校に中心教科研究を受け持つ仕組みを導入できないだろうかと考えてきた。現在を見てみると、香南中ブロックは英語教育で、大篠小は算数科で、長岡小は特別活動で、後免野田小は特別支援教育で成果を上げてきている。こういったことを評価するとともに、人事も含めて継続していく。また、北陵中ブロックは国語科、十市小は国語科、奈路小・白木谷小は複式指導、岡豊小は道徳科に取り組んでいることであるし、理科や社会科、生活科、総合的な学習の時間など重点的に取り組まれていない教科等についても、拠点校を設けて継続的に指導を研究していくようにできないか。それがかなえば中学校ブロックでの研究・実践推進や市内人事異動での指導力向上が期待できるのではないかと思う。単なるアイデアかもしれないが、知恵を絞りあっていくきっかけにはなるのではないか。

○市内3中学校では教科のタテ持ちによる組織力向上の取組が進められている。評価にもあるように指導方法の改善や指導力の向上に一定の効果が上がっているようだ。それは評価できるのだが、学年団で指導していく従来の方法の良さである生徒理解の共有化や深まりの点ではどうなのか、少し気になっている。不登校生徒が減少しない状況や生徒を取り巻く様々な環境の劣化状況などへの対応が、以前どおり行えているのか心配である。

○「ふれあい教室」の周知が進んだことは素晴らしい成果である。指導員の不足等への課題に対して、どのように取り組むのか考えていきたい。

○「ふれあい夏季教室」が初めて実施されたことに感謝したい。周知不足等課題があり、引き続き開設できるよう配慮をお願いしたい。

○高知県学力定着状況調査が12月に前倒しになった。到達度把握調査もあり、2学期の授業はテスト実施日に間に合うようにと無理がかかっているのではないか。2学期の行事はぎりぎりまで削減されてきてはいるが、それでも余裕のない授業が進められているのではないかと心配している。児童生徒や指導者に負担が過重になっているのではないか。

○特別な支援を要する児童・生徒の増加・多様化への対応については、他の専門機関（高知大医学部・特別支援学校など）との連携を密にし、一人ひとりの実態に即した教育内容の充実（ユニバーサルデザインの視点に立った授業、合理的配慮等）を図っていくことが急がれる。

○学校・教育委員会等で、情報を共有し合いながら未然防止に力を注いでいるにもかかわらず、不登校児童・生徒の増加傾向に歯止めがかからない。要因も多様化かつ複雑化してきている。一人ひとりの児童・生徒にとって本当に楽しい学校になっているか、教科学習・学校行事・部活動等を見直すとともに、指導者の観察力をも養っていく必要がある。

○ICT機器活用教育の活性化。これからの社会を生き抜くためにどうしても必要な力となってくる。早い段階で正しく活用する力をも身につけさせていく必要がある。そのためには補助指導員の配置が必要である。

○小学校給食調理場の老朽化と児童数増減による調理員配置の困難性もあり、民間委託か給食センター方式を検討する時期に来ている。中学校給食がいい手本になっているのでは。

○香長中のマンモス化。一方、香南中の生徒数減で部活動もできなくなってきている状況。そこで、香南中の特認化と香長中の校区選択の弾力化を考えてもいいのではないか。大篠小の例もあるので、考えてみてはどうだろう。後免町駅から裏の道路は香南中にまっすぐな道で交通量もあまりないので、自転車通学には適していると思われる。

○夏季休業中のプールの開放は、しっかりとした監視体制を家庭や地域の協力を得ながら整えていく必要がある。

○スクールソーシャルワーカー活用事業では、SSWの配置により、学校だけでは十分対応ができない児童・生徒に対する支援を行う事が出来ている。

○「実践的防災教育指定事業」は、大湊小学校、三和小学校、稲生小学校、久礼田小学校に続き、H30からは後免野田小学校が指定を受けて取り組んでいる。岩沼市との交流事業などを通じて、その目で見て感じ取り、考えることによって防災意識の大切さを身をもって体験することが出来た。また、災害発生時に対するより実践的な対応への取組が出来た。

(2) 生涯学習に関すること

①各事業の推進について

- 各事業の推進については、概ね取組ができています。
- 地域学校協働本部事業については、具体的にどのような取組をしているのか、保護者や地域の方にもっと知らせていく必要がある。学校支援ボランティアに参加している人には分かるが、参加していない人には見えない事業になっていないか。さらなる事業推進に向けて、広く地域への周知をしていくことが必要である。
- 「地域学校協働本部事業」は、学校と地域の連携により学習支援や子どもの見守り等に関わっていただいた。地域と学校が協働して地域・家庭の教育力を向上させる仕組みの構築に成果があったと思う。
- 多岐にわたるたくさんの事業を受け持ち、推進されていることに感謝したい。特に、南国市中央地域交流センター（仮称）、市立図書館の整備事業が重なり、その業務量は相当なものになっただろう。市民にとって使いやすい施設になるよう引き続き努力をお願いしたい。
- 市内遺跡発掘調査事業では、特に国分寺の寺域確認の調査で成果が上がっている。まほろばの地の歴史発掘に一層力を尽くしていただきたい。
- 「まほろばクラブ南国」の取組は、年を経るごとに充実している。
- 「令和元年度 高知県新任市町村教育委員・教育長合同研修会」では、講演において「地域住民が学校支援などを通じて積極的に教育に関わっている学校ほど、学力レベルが高い傾向にある」という報告を聞いた。これからも積極的に推進していきたい事業である。

②取組の状況について

- 男女共同参画推進事業での出前教室実施は、児童に新しい気づきを与えてくれる、素晴らしい内容であった。是非、今後も続けていきたいと思います。
- 生涯学習課の担当業務かどうか不明だが、南国市北部の遍路道を兼ねた「ももちかくんウォーキングロード」の維持管理はどうなっているのか。地域住民がかかわる生涯学習の推進や健康維持事業の推進に役立ちそうに感じているのだが。
- 「南国市少年少女発明クラブ」の所管は明確になっているのだろうか。「からくり半蔵研究会」「からくり創造工房」などとの関係も含めて、はっきりさせるのが望ましい。
- 新設される南国市中央地域交流センター（仮称）の活用について、「いかに市民に親しまれ、有効に活用されるか」を検討していく必要がある。先進地を視察したり、各地の情報を取り寄せたり、市民の要望を調査したりして有効に活用される文化センターにして欲しい。

3. その他

○いじめの防止や不登校対策の取組では、今の学校や社会全体に広がっている「孤独」の連鎖を断ち切らなければならない。「自分を大切に思える心」を、子どもだけでなく、まず大人が持っていなければ、いじめや不登校はなくなる。「いじめはなぜ起こるのか」根本的な問題から解決していかなければ、なくすのは難しいだろう。学校と地域が一体となって、子どもとの関わり方やコミュニケーション能力を育む取組が必要である。

○各種事業については、スクラップ&ビルドの推進をお願いしたい。

○「学力テスト」対策が中心に置かれた学校運営に懸念をずっと感じてきた。人と人をつなぐ大切な「心」の育成がおろそかにならないだろうかとの懸念である。行事を通じて行っているとの意見については、平素からの地道な取組の中に行事への取組が位置づいたり、行事終了後にそれへのかかわり方を反芻する時間的余裕が保障されたりしていれば行事を通じて心を育成していると説明されても納得できるが、行事の連続であったり、うまく全体を流していく子どもを中心においた行事づくりが普通になったりしているなら、期待通りに子どもたちの成長があるとは、素朴に信じる事はできにくい。学校では、日頃の学校生活の中で友人や教師や異学年の仲間との活動やふれあいを通しながら子どもたちの「心」が育つということを思い返す必要があるのではないか。「学力テスト」という個人の結果中心の取組が多くなればなるほど、結果の格差だけでなく分断を推し進める結果になるのではないかと強く危惧している。

○働き方改革について、いつの間にか学校が子どもたちのすべて、食事や家庭のことまでも背負わなくてはならなくなってきた現状。学校行事を精選したり、校務支援システムを導入したりするだけでは、なかなか解決できる問題ではなくなってきた。児童・生徒の健全育成のためには、保護者や地域の教育力がどうしても必要になってくる。保護者や地域の教育力の回復を社会全体で考えるとともに、教育分野が背負う部分と家庭や地域社会、行政的分野が背負う部分を区別していくことが必要である。

○南海地震に備えての防災教育も、“避難訓練”から“危険箇所のチェック”や“避難所での生活”を考えるとところまで進んできた。これからも意識を絶やすこと無く、さらなる防災教育の推進が必要である。

○自己点検・評価も10年を超え、一定の成果が出ている。さらなる向上を目指すために、外部評価委員などを導入することにより、新たなシステムの構築にも努められたい。